

公益財団法人日米医学医療交流財団 留学助成

研修報告書

(2025年度 助成者)

作成日 2025年 9月 1日

氏名 (フリガナ)	杉井 万里子 (スギイ マリコ)
研修先機関名	Hawaii Tokai International College
研修期間	2025年8月4日 (月) ~ 8月9日 (土)
大学名 学年	慶應義塾大学 5年

この度は、Hawaii Tokai International College 主催の医学部夏季集中医学英語研修プログラムに参加させていただき、ありがとうございました。研修を通して、ハワイ大学医学部の講師や学生、そして全国から集まつた志の高い医学生と交流できたことは、想像を遥かに超える貴重で代えがたい経験となりました。心より感謝申し上げます。

私は将来アメリカで臨床医として働くことを目指しており、来年1月にアメリカでの短期臨床留学を予定しているため、その準備として実践的な医学英語能力の習得を目的に本プログラムに参加しました。しかし、実際にはそれ以上に多くの学びと素敵な出会いがあり、一週間とは思えないほど充実した毎日を過ごすことができました。

学習面では、初めての History Taking や Case Presentation に最初は不安を感じましたが、夜遅くまで繰り返し練習し、先生方からフィードバックをいただくうちに自分なりの型を身につけることができました。ただ結局のところ、必要な情報を順序立てて患者さんから引き出すには、医学知識と英語力のどちらが欠けていても歯が立たないということを実感し、さらに勉強を重ねなければならないと強く感じました。また、PBL (Problem Based Learning) の授業では、他の参加学生と活発に議論を交わし、より実践的で臨床に役立つ知識を英語で深めることができました。驚いたことに、JABSOM の学生は入学してすぐ PBL を行うそうで、入学1ヶ月目の1年生がハンセン病についてのプレゼンを行っている姿は大変印象的でした。また、日本から参加した仲間たちも非常に意欲的で、医学や英語のスキルが高く、よく刺激を受けました。プログラム終了後も、参加者同士で USMLE の進捗報告や PBL の勉強会を開催するなど、交流は継続しており、今後も続けていきたいと考えています。

さらに、実際にハワイで活躍されている日本出身の臨床医の方々から貴重な体験談を伺うことで、私の将来像がより具体的になり、キャリアの選択肢について多くの示唆を得ることができました。現地のローテーション中の医学生との交流も非常に刺激的で、医学部3年生でありながら上級医に5分間のプレゼンを行い、今後のアセスメントまで考えられている姿を見て、自分も将来アメリカで肩を並べて働くために、より一層努力する必要があると痛感しました。この経験は、自身の学習モチベーションを大きく高めるきっかけとなりました。

最後になりますが、本プログラムの開催にあたりご尽力いただいた Hawaii Tokai International College、日米医学医療交流財団の皆様、ご指導くださった講師の先生方、そして共に学んだ参加者の皆様に、改めて深く感謝申し上げます。本研修で得た経験と刺激を糧に、今後も立派な臨床医として、そして国際的に活躍できる医師を目指して邁進してまいります。

